

2018年度は「惑星直列」の年



吉 沢 浩 志

2018年度は①第7次地域保健医療計画、②第7期介護保険事業（支援）計画〈①、②の両計画は今回から3年毎に〉、③診療報酬・介護報酬同時改定〈同時改定は6年に一度〉、④介護医療院の創設、⑤国民健康保険の都道府県化、⑥医療費適正化計画第3期スタート、⑦第2期データヘルス計画の本格稼働、⑧医学部定員の検討結果反映年等の大きな制度改革が目白押しで、昨年3月策定された地域医療構想で重要な立ち位置を占める各圏域の調整会議も動き出した。

新潟県では、県知事交代による「新潟県『夢おこし』政策プラン」に代わる「新潟県総合計画にいがた未来創造プラン」が策定され、更に第7期高齢者保健福祉計画、肝炎対策推進計画も含めた諸計画のパブリックコメントや法定意見照会の手続きが2月上旬までに終了し、3月中の成案策定に向けた作業が進められているが、重要な点は全ての計画の整合性を図ることである。

この様に2018年は種々の計画・改革が一度に行われる「惑星直列」の年で大改革必至と喧伝されていて、この言葉は現厚労省保険局長・鈴木康裕氏の発言とされ、「2025年を前にドラスティックなパラダイムシフトが起きる、或いはその準備のために起こさないといけないのではないか」と氏は述べている（medwatch/2016.7.26）。

また、厚労省保険局医療課長の迫井正深氏も日医社会保険指導者講習会（2017.10.5）で「私たちは“惑星直列”と呼んでいるが、さまざまな施策がシンクロし、大きな改革が進む」と述べ、改革の前提となる「医療を取り巻く状況・課題」について理解を求めている。

今回診療・介護報酬同時改定の中心人物である鈴木氏と迫井氏の両氏は、前回2012年の同時改定に鈴木氏が医療課長、迫井氏が企画官として総指

揮を執った間柄である。鈴木氏は2016.6の人事異動で保険局長に就任したが、前職は大臣官房技術総括審議官、前々職が医療課長でその頃から講演などで惑星直列を使っていたという。

Web 医事新報は「天文学的に宇宙の惑星直列が観察される確率は極めて低い」が、「宇宙の惑星直列が地球に及ぼす影響について、地球物理学の定説は、太陽や月に比べて他の惑星による潮汐力の変動はわずかで天地異変は起こらないとする。一方、鈴木氏が唱える惑星直列は行政計画や保険点数の改変という“潮汐力”の変動を伴う。この場合、各地域が地球に比せられよう。医療・介護従事者は惑星直列に備え、混乱に陥らないよう影響を注視する必要があるだろう」と記事を書いている。

また、週刊保健衛生ニュースのヘルス・アイは「惑星直列へのカウントダウン」と題して意見を載せている。第1に社会保障の財源問題で、費用対効果をどのように測定し、医療費や介護費用の適正化だけでなく、超少子高齢社会、人口減少社会における生産性の維持・向上まで含めた広い視野が求められる。第2に医療と介護の連携で総合的に見通した政策推進の必要がある。第3に惑星直列はあくまでも2025年問題をにらんだもので、2008年に提起された。つまり20年近い将来の医療・介護供給体制を見通した議論であったことを踏まえば、高齢化のピークである2040年代を見通した次の「ビジョン」を構想すべきで、当面の惑星直列で右往左往してはいけない（第1939号、2017.12.18）。

診療報酬・介護報酬改定は、地域包括ケアシステム構築を掲げ在宅医療、看取り推進が重視された。地域医療構想始め課題山積の年度に入る。

（県医副会長）